復興大臣田中和德 国政報告書第305号

衆議院議員田中和德事務所 TEL:03-3508-7294 FAX:03-3508-3504

http://www.tanaka-kazunori.com E-mail:k-tanaka@kamome.or.jp



コロナ対策は、①手洗い②咳エチケット③出歩かない

1. 新型コロナウイルスの特徴、予防と治療法

新型コロナウイルスの特徴

感染力 : 感染者の咳やくしゃみの飛沫で感染し、空気感染はしない。

人が密集した換気の悪い場所は、感染のリスクが高い。

毒 性 : 毒性はそれほど強くない。発症者の約8割は軽症以下。

ただし、高齢者や持病のある人の場合、重症化しやすい。

潜伏期間: 潜伏期間は平均5~6日、長くても12.5日程度。

予防法と治療法は、概ね普通の風邪の場合と変わらない

予防 : 咳エチケットやうがい、手洗いを徹底する。室内をよく換気する。

人混みに近付かない。必要ない限り、医療機関に行かない。

治療: 自宅の温かい部屋で、十分な栄養と水分を摂り、よく眠る。

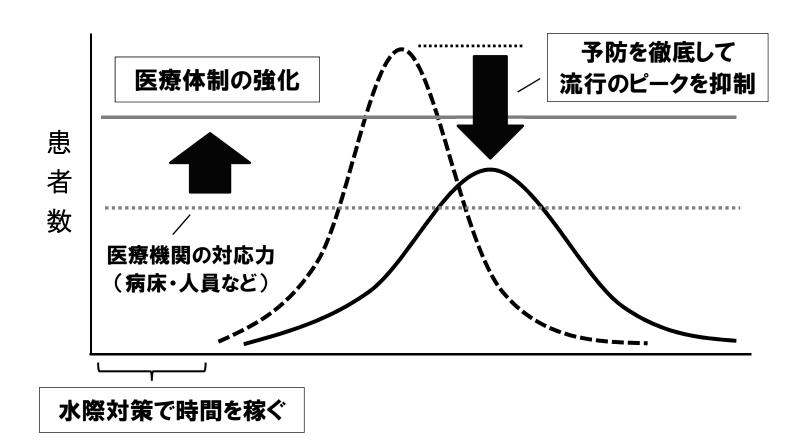
発症者を個室に移し、他者との接触を極力控える。

重症者については、医療機関で診察し、入院の上で治療する。

2. 政府の新型コロナウイルス対策の基本方針

≪ 新型コロナウイルス対策の基本方針 ≫

目標 : <u>医療崩壊を防ぎ、全ての疾病と怪我による死者を抑制すること</u> そのために、新型コロナウイルスの流行を遅らせ、時間を稼ぐ



最も恐ろしいのは、夥しい数の軽症患者と検査希望者が殺到することで、 病院がパンクし、治療を必要とする重症患者に対応できない事態である。 医師や看護師、病床、検査機器など、医療機関のリソースは有限である。 そして、新型コロナウイルス以外にも、対応が必要な疾病は沢山ある。



水際対策と予防対策で時間を稼ぎ、その間に医療体制を強化する 医療崩壊を防ぎ、特に治療が必要な重症患者への対処に重点を置く

3. 具体的な政府の対策

≪ 水際対策 - 新型コロナウイルスの侵入を可能な限り防ぐ ≫

入国管理体制の強化	新型コロナの流行地域に滞在歴がある外国人の上陸を拒否し、 そうした地域から日本へ入国する際のビザの管理を厳格化する。
検疫体制の強化	検疫官の増員、入国管理局や航空会社、海運事業者との連携強化。 世界保健機関との連携や情報共有を進め、緊急支援に貢献する。

≪ 予防対策 - 新型コロナウイルスの流行を防ぎ、遅らせる ≫

国民への広報活動	咳エチケットやうがい、手洗いの徹底、イベントの自粛など、 国民一人一人に予防を呼びかけ、感染の拡大を防止する。
特別措置法の改正	新型コロナウイルスの感染予防活動を円滑・強力に支援するため、 新型インフルエンザ等対策特別措置法を改正する。
学校の臨時休業 保護者に対する支援	児童の感染を防止するため、学校を臨時休業にする。 保護者の休暇取得を支援し、保護者向けの助成金制度を創設する。
事業者への支援	被害を受けた事業者を支援するため、約1.6兆円の金融支援を行う。 低利の特別貸付制度や、無利子・無担保の支援融資などを行う。 休業手当などの負担を和らげるため、雇用調整助成金を充実させる。
マスク対策の充実	マスク不足解消のため、転売を禁止し、メーカーの増産体制を支援。 医療機関や介護施設などには、国がマスクを優先的に配布する。
専門家の派遣	感染症の専門家を自治体に派遣し、予防体制の構築を支援する。

≪ 医療体制の強化 - 医療機関の対応能力を底上げする ≫

患者受入体制の強化	病床や人工呼吸器などを確保し、重症患者の受入体制を強化する。
相談センターの整備	新型コロナウイルスへの感染を疑う方のために、相談窓口を整備。 その相談窓口から専門の医療施設を紹介し、検査を受けて頂く。
治療薬の開発	政府と製薬企業、医療機関が一丸となって治療薬の開発を支援する。
検査体制の充実	新型コロナウイルスの検査体制を拡充し、保険の適用を認める。

4. PCR検査は、『治療』の役には立たない

感染症の対策を立てるには、感染状況を正確に把握する必要がある。 そういう意味で、**PCR検査は、『疫学的には』大変重要といえる。** しかし、『**発症者の病気を治す』という点では、現状で意義は乏しい**。

PCR検 査 の欠 点 ① 治療法が変わらない

現状、新型コロナウイルスには、専用の薬や治療法が確立されておらず、 通常の対処療法(軽症は自然治癒、重症は入院治療)以外にない。 従って、検査でどんな結果が出ようと、治療方針はほとんど変わらない。

PCR検 査 の欠 点 ② 院 内 感 染 のリスク

新型コロナは感染力が強く、院内感染で流行が広がる危険性がある。

PCR検査の欠点③ 精度が低い

新型コロナウイルスに関して、PCR検査の精度は決して高くない。 こうした状況で、希望者全員に積極的に検査を行ってしまうと、 感染しているにも関わらず、陰性判定をもらう人が大量に出てしまう。 そうした人々が自宅待機を止めた場合、感染が拡大する危険性がある。 偽陰性患者を増やさないためにも、検査対象は絞り込む必要がある。

発熱のある人は、自宅で安静にして様子を見て頂きたい。

数日経っても発熱が続く、または、強い倦怠感や息苦しさを感じる場合は、 地域の帰国者・接触者相談センターに連絡、ご相談をして頂きたい。 センターの連絡先は、川崎市公式ホームページに記載されている。

<u>新型コロナは8割が軽症、致死率も高くない。</u> パニックに陥る必要は無い。